

公益信託世田谷まちづくりファンド

第33回助成事業 審査講評

まちづくり活動部門

【3回目応募グループ】

< 4-1 社会福祉法人せたがや檜の木会上町工房 >

- ・日ごろから住民や地域内の施設等がつながる状態を作ることにはなかなか容易ではありませんが、まちづくりにおいて大変重要です。なんらかの課題を抱える人たちが緊急を要する事態になった際、貴社会福祉法人が蓄積された楽しく・ゆるい関係性が活かされるでしょう。ネットワークはあくまで手段の1つとして、今後も使命を忘れずに地域に必要な拠点活動を続けてください。

< 4-2 まほろばBASE >

- ・メンバーの皆さんの発信力、コミュニケーション能力を生かし、今年度も多くの新たな参加者との出会いを目指していただきたいと思います。次年度以降の運営サポートにつながる仲間や資金調達も視野に入れながら頑張ってください！

< 4-3 太子堂ワークショップ準備室 >

- ・総合性のある、とても魅力的なプログラムが育っていると思います。ニッチなもの、あるいは費用がかかりすぎるものについて、太子堂だけにこだわらず、他の地域や団体と共同で取り組むことで、負担を逃すことができるかもしれません。いずれにせよ、4年目以降の安定へ向けての最後の活動を、頑張ってください！

< 4-4 話そうじゃないか >

- ・様々なテーマのイベントを通じ、普段は出会うことのない人たちがつながり合うことを目指して試行錯誤され、チャレンジしている様子が伺えます。一方で参加者はリピーターが多いとのことで、活動の趣旨を勘案するともう少し広がりが見たいところですね。将来の組織化へ向け、かねてから課題であるイベントの告知や広報活動など、より具体的な計画のもと進めてみてください。

< 4-5 SOPH >

- ・しっかりとフィーをとる活動と、採算度外視で取り組む活動のバランスを見極める最後の年だと思います。無理のない、持続的な活動モデルを確立することを期待しています。

< 4-6 世田谷マップDXプロジェクトチーム >

- ・第2ステップでの展開、新たなアプリの開発、そして古地図や手書きの情報との連動など大変興味深いです。今後の展開については、既存の活用イメージから一歩先が見えて来ることに期待を込め、多様な団体とつながりながら模索していった欲しいと思います。

< 4-7 特定非営利活動法人 せたがや喜多見 農とみどり >

- ・都市生活では不足がちな農・自然体験を提供できる大変有意義な活動です。今後は子ども食堂との関係を強め、農作物と人の循環を促していくとのこと。貴団体の取り組みが区内のケーススタディとなり、農園やコミュニティ運営のノウハウを社会に広く共有し、各所に伝播していくことを期待したいです。

< 4-8 サステナキッチン >

- ・公開プレゼンの際に「ママに言われて参加するようなプログラムではダメ。パパや子ども自身が行きたくなるような企画にしなければならない」と回答いただいたことが印象に残っています。本当にその通りですね。料理講座に参加するという形だけではなく、今後の参加者全体のゆるやかな連携・交流事業に期待しています。